

<書評>

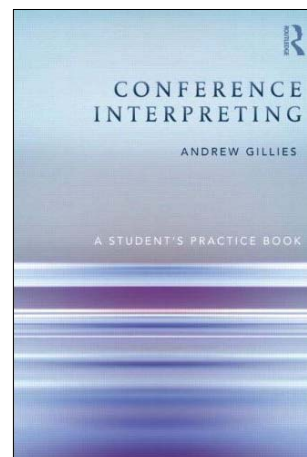
Conference Interpreting: A Student's Practice Book

Andrew Gillies

(Routledge 2013 年)

Pages: 296 pp.

ISBN 978-0415532365



評者 鶴田知佳子(東京外国語大学)

通訳というのは技術である。通訳者として身に着けているべき技術は部分に分けることができる。通訳という技術を獲得するためには練習が必要であるが、その練習をする上で時間を有効に使い、一人で勉強するときだけでなくグループで練習するとき、あるいは通訳を教える立場となったときには是非見たい本である。特定の言語に特化せず、使用者の目的や実力に応じ、楽しく実行できかつ技術力をつける練習が、カタログ形式で提供されている。喩えるなら、俳優が演技の勉強をするとき、あるいは演奏者がよりよい演奏をするためにできなかったところを分析して、なぜできないかを特定して、その部分を強化するために何が必要かを特定して使えるようになっている。

本書は四つの章から構成されている。

1. 練習方法
2. 言語の強化
3. 逐次通訳練習
4. 同時通訳練習

383 の訓練方法を上記の 4 カテゴリーに分類し、それぞれ必要性、目的、レベルに合わせて使用者が選択できるように提示している点が、本書のおそらく最も特徴的な点だろう。中には interpret from a picture (写真を基に通訳する)あるいは interpret from a picture you can't see として通訳者に必要な anticipation と storytelling の能力を鍛えるために逐次通訳練習と同時通訳練習の両方で登場するなど、古今東西の練習方法が、実行手順と出典を合わせて提示されている、極めて実用性と利便性に富んだ著作である。

個人的に注目したいのは、通常習得が難しいとされる背景知識の獲得に役立つ練習である。流行の歌、小説などを使用して、ことばの習得に不可欠な文化に支えられた背景知識が楽しく

身に着けられるように考えられている。通訳とは音声を聞いて音声で「ことばではなく意味を訳出」する作業であるが、リスニングを鍛えるための練習、パブリックスピーキングを鍛えるための練習、訳出自体を鍛えるための練習など目的に応じて細分されており、必要に応じて検索が容易なのが嬉しい。新聞記事をばらばらに切って続きを予測する、一部通訳訓練者が「写経」と称しているが気に入った文章をそのまま書き写す、など広く用いられている方法もあるが、中には「下手なスピーカーのシャドーイングをすることで、反面教師として通訳のデリバリーの問題に応用する」など、斬新なアイデアもあり、通訳クラスの演習を多角的にする、あるいは新規クラスのカリキュラムデザインをする際などに、今後必携の一冊となるのは間違いないだろう。

どんなに才能に恵まれていたとしても、練習をせずにすぐれた通訳者になることはできないし、練習を休んでばかりいたのでは技術が身につくことはない。本著で著者が主張している主要な点のひとつに「行き詰った時は、練習をやめるのではなく、違った練習をすることで(目先を変えて)練習を続けるようにすること」とある。要するに、通訳というスキルを習得するためにはたゆみなき練習が必要であるという当たり前の点を再認識させられる。

この本の著者、アンドリュー・ギリーズ氏はパリで有数の通訳大学院の一つとされる、多文化間マネジメント・コミュニケーション学校多文化間マネジメント・コミュニケーション学校 (Institut de management et de communication interculturels) にて教鞭をとっている。さらに国際会議通訳者協会(AIIC)の training committee の一員として活発に通訳者訓練に携わっており、著者の通訳養成に携わった豊富な経験から編み出したものであることが伺える。昨今の通訳者の日ごろの行動にも通じるところがあるが、ウィキペディアやインターネットを大いに利用しているところ、また子どもがことばを覚えるうえで使っているボードゲームなどを取り入れており、目先の変った学習も可能となっている。本書は通訳の教育を行う側が毎回の授業の教科書として使うこともでき、また一部授業で取り入れるエクササイズのアイデアを記したカタログ本のように使うことのできる、柔軟性に富んだものであることを強調したい。

.....
【著者紹介】

鶴田知佳子 (TSURUTA Chikako) 東京外国語大学大学院総合国際学研究科教授。NHK衛星放送、CNN同時通訳者。会議通訳者。AIIC(国際会議通訳者教会)会員。
.....